

# 静岡県自然ふれあい施設

自然ふれあい施設は、全国で自然ふれあい活動の機会を提供している施設です。  
公共施設としては、  
国立・国定公園内にあるビジターセンター、  
自然観察の森、環境と文化のむら、  
ふるさといきものふれあいの里、  
ふるさと自然のみちなどの施設があります。



## 天竜の森

天竜の森は、浜松市天竜区春野町と佐久間町にまたがる竜頭山を中心とした約95haの県営林を整備した森林です。大きく「仙人(そまびと)の森」「野鳥の森」「修験の森」の3つの森に分かれ、春の新緑や秋の紅葉など四季折々の表情が楽しめます。  
交通案内：東名浜松 I.C. より約2時間  
JR 浜松駅より国道152号線経由で約2時間30分  
東名袋井 I.C. より約2時間  
JR 袋井駅より約2時間30分  
お問合せ：静岡県西部農林事務所天竜農林局森林整備課  
浜松市天竜区二俣鹿島 559 TEL 053-926-2314

## 県立森林公園

県立森林公園は、森林レクリエーション活動や自然学習の場として、天然のアカマツ林を主体とした豊かな自然に恵まれた浜松市根笠、尾野の県営林(215ha)に1965年に開設されました。ビジターセンター・バードピア浜北は、自然と人の「共生」を基本理念とし、鳥類を中心とした自然に関する情報を発信し、四季折々の新しい情報を提供しています。  
交通案内：東名浜松 I.C. より約30分 JR 浜松駅より約40分  
連絡先：バードピア浜北  
浜松市浜北区尾野 2597-7 TEL 053-583-0443  
開館時間：9時00分～16時30分  
休館日：毎週水曜日(祝日の場合はその翌日)  
年末年始(12月29日～1月3日)  
入館料：無料

## 榛原ふるさとの森

榛原ふるさとの森は、昭和40年代までは谷津田や薪炭林などとして利用される明るい里山でした。その里山の自然を取り戻すため整備されたのが「榛原ふるさとの森」です。  
交通案内：東名相良牧之原 I.C. より約20分  
東名吉田 I.C. より約30分  
JR 金谷駅より約15分  
お問合せ：静岡県志太榛原農林事務所森林整備課  
藤枝市瀬戸新屋 362-1 TEL 054-644-9243

## 県民の森

県民の森は、県政百年を記念して整備された野外レクリエーション施設で、静岡市北部の井川・梅ヶ島地区にまたがる尾根沿いの約1,000haの地域です。  
県民の森センター、キャンプ場などの施設は、富士見峠から約9km、豊かな大自然の懐にあります。  
交通案内：静岡市街から井川方面へ50km、車で1時間45分  
連絡先：県民の森管理棟  
静岡市葵区井川 TEL 054-260-2214  
受付時間：9時～16時(火曜定休、ただし7～8月は無休)

## 昭和の森

昭和の森は、昭和天皇の在位50周年を記念して、林野庁が指定した自然に親しめる森です。伊豆天城山一帯の国有林1,600haがその範囲に入り、昭和の森会館を起点に、踊り子歩道や野鳥の森、八丁池など、様々なハイキングコースがあります。  
交通案内：東名沼津 I.C. より約1時間  
伊豆箱根鉄道修善寺駅からバス約35分  
連絡先：昭和の森会館  
伊豆市湯ヶ島 892-6 TEL 0558-85-1110  
開館時間：8時30分～16時30分(3月～10月) 9時～16時(11月～2月)  
休館日：第3水曜日 年末年始(12月29日～1月1日)

## 遊木の森

遊木の森は、静岡市の市街地に近接する有度山丘陵(中日本平地区)の県有地に、森林環境教育の実践の拠点として開設されました。遊木の森では、自然に親しみ、里山や森林とふれあう楽しさを伝えます。また、里山や森林の持つ役割や機能、その現状を伝え、里山や森林についての理解を深めます。さらに、周辺の暮らしや、生活の知恵、地域の歴史や文化など、人々の生活や環境と里山や森林との関係についての理解を深めます。  
交通案内：東名静岡 I.C. より約30分 JR 静岡駅よりバス約40分  
お問合せ：静岡県くらし・環境部環境局環境ふれあい課  
静岡市葵区追手町 9-6 TEL 054-221-2848  
開館時間：9時～17時(3月～10月) 9時～16時(11月～2月)  
年末年始休館



### 昭和の森とは

昭和の森は、昭和天皇の在位50周年を記念して自然休養林に指定された、伊豆天城山一帯の約1,600haの国有林です。それに伴い、国や県、天城湯ヶ島町(現：伊豆市)、河津町が協力して、天城の豊かな自然とふれあい、自然に親しめる野外レクリエーションの場として整備されてきました。  
この地域は、樹齢400年の天然記念物「太郎杉」に代表される巨木や古木や、天城火山の火口湖である八丁池、浄蓮の滝や滑沢川、二階滝などの清冽な渓谷と滝の美観に加え、川端康成の小説「伊豆の踊り子」で知られる旧県道の天城路は、往時をしのばせる情緒を今もただよわせています。  
昭和の森のビジターセンターとして1980年にオープンした昭和の森会館は、1998年には「道の駅 天城越え」に登録されました。館内には、昭和の森に関する情報や農林業の歴史を紹介した「森の情報館」や川端康成や井上靖など、伊豆ゆかりの文学者の資料を展示した「伊豆近代文学館」などの施設があります。  
また、八丁池周辺には、豊かな自然の森に触れることのできる「野鳥の森」があります。ここでは、森や自然の環境を保護するため、一般車輛の乗り入れを禁止し、寒天山道を經由した専用バスを運行しています。

## 植物ごぼれ話

### …さるすべりとは

サルスベリといえば夏から秋にかけて真っ赤な花を咲かせる百日紅をご存じの方も多いでしょう。樹皮がスベスベで猿も登れないことから「サルスベリ(猿滑)」の名がつけられましたが、これ以外にも猿滑と呼ばれる木がいくつかあります。その代表格がヒメシャラです。やはり樹皮がつるつるなことから、静岡県内でも広く使われ、特に伊豆地方などでサルスベリと呼ばれることが多いようです。こういう地域的な呼び名を植物方言といえます。  
このほかにもナツツバキ(富士山麓など)、リュウブ(函南町)、オガタマノキ(伊豆)、カゴノキ(伊豆、遠州)など、いずれも樹皮がつるつるなことがこの呼び名のポイントです。



<p><b>姫沙羅</b></p> <p>ツバキ科 Theaceae</p> <p>ヒメシャラ</p> <p>STEWARTIA MONADELPHA</p> <p>神奈川県より西に生える落葉高木。幹は淡赤黄色でなめらか、よく自立つ。花は夏、径2cmほどで白い。</p>	<p>百日紅は中国南部原産のミソハギ科の落葉高木で、日本には江戸時代に渡来しました。7月から10月にかけて約3ヶ月間(100日間)ピンクの花を咲かせることから「百日紅(ひやくじつこう)」ともいわれますが、この字を書いたサルスベリと読むのが普通です。百日紅ですが、白花の品種もあります。姫沙羅(ヒメシャラ)はツバキ科ナツツバキ属の落葉高木で、神奈川県より西から九州の屋久島まで分布する日本固有の種です。ナツツバキ(別名シャラノキ)によく似ていて、花がずっと小さいことからこの名が付けられたとされます。6月～7月ごろに直径2cmほどの小さな白い花をつけます。幹はサルスベリに似て赤く滑らかなため、別名サルスベリ、サルタノキなどと呼ばれることもあります。</p>
---	--